

学区の面積を求めよう

単 元	面 積	対象学年	5 年
ね ら い	児童にとって身近に感じられる学区の面積を求めようとする中で、面積の学習に意欲関心をもつことができる。		

1 準備するもの

教師：学区の白地図、学習プリント、教材提示機

児童：筆記用具

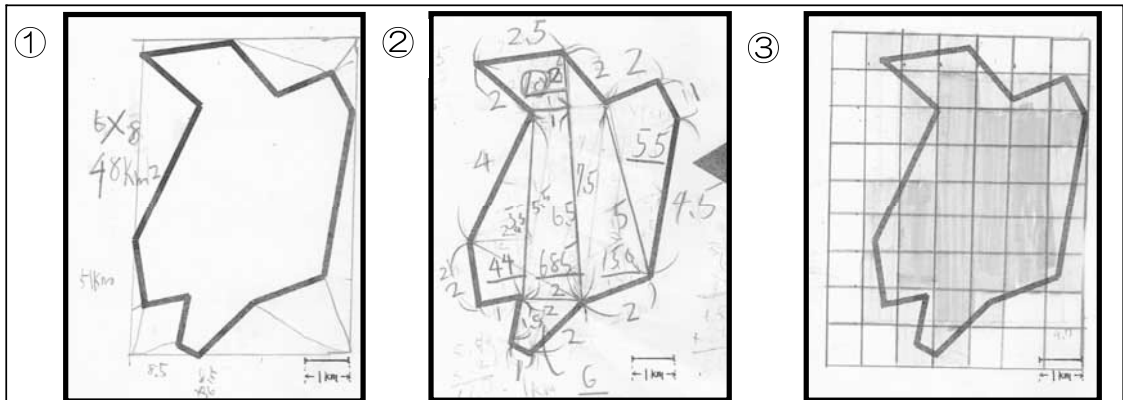
2 学習のしかた

(1) 学区の地図を見せ、岡崎市中の地域の中で大きいのか小さいのか予想する。

本時では、学区の地図を見せ、上記の発問をすると学校の全児童の人数から大きい方なのではないかという予想をした児童が多かった。自分の町名の名前が入っている地図が出てきたことで、驚き、興味をもつ児童が多かった。

(2) 既習の知識を利用して、学区の面積を考える。

ワークシートを今までに習った知識を利用して面積を考える。



本時では、①のように学区を長方形で囲み考える児童、②のように学区を区切ってみて考える児童、③のように一辺1kmの正方形の枠で囲み、欠けていないところを1km²、欠けているところを0.5km²として考える児童が現れた。

(3) 自分の考えを発表する。

全員が自分なりの考えをもつとともに、正確な面積は求められないことに気付く。その上で、どうすれば正確な面積を出せるか考えさせる。そうすることで、三角形などの面積の求め方を学習していきたいという気持ちをもつことができる。

本時では、たくさんの考えが出る中で「ああ、出そう！」とつぶやく児童がいた。しかし多くの児童があまりよく分からないという表情を見せていた。上記にある(2)の③を発表した時には、「おお。」という声が上がったが、発表した児童自身が正確ではないことに気付いており、面積の出し方を知りたいと言いつづ児童が出た。